

令和7年度
袖ヶ浦市郷土博物館の
運営に関する点検と評価

令和8年7月
袖ヶ浦市郷土博物館

1. はじめに

博物館法第9条には、博物館の運営の状況の評価を行うとともに、博物館運営の改善をはかるため、必要な措置を講ずるよう努めなければならないことが規定され、博物館の設置及び運営上の望ましい基準第5条第4項においては、博物館協議会の活用やその他の方法により点検と評価を行い、その結果を公表するよう努めることが示されている。

そのため、郷土博物館の活動目標及び活動計画でもある『袖ヶ浦市郷土博物館の使命－そではく35の展望－』（別添資料）に基づき、令和7年度の博物館運営について点検と評価を行うものである。

『袖ヶ浦市郷土博物館の使命－そではく35の展望－』は、平成24年7月に策定した『袖ヶ浦市郷土博物館の使命－そではく30の展望－』の10年の成果を受け、開館40周年の節目において、点検・評価内容を確認・修正し策定したものであり、そではくが地域博物館として果たす、「4つの使命」を遂行するための「7つの活動目標」と、その活動目標を達成するためのアクションプランとして「35項目のあるべき姿」が設定されています。

◎地域博物館として果たす「4つの使命」

- ①地域の文化的な個性を探り、継承し、その発信拠点となります。
- ②市民の学習の場・知的交流の場となって、地域文化の向上につくします。
- ③市民の生涯学習拠点としての安心・安全な施設を提供します。
- ④博物館の社会的役割を意識し、地域に貢献します。

そではくは、地域の資料を収集整理し、市民の共有財産として次世代に継承するとともに、調査研究に基づいた常設展示の更新及び企画展・特別展を、市民のニーズも考慮しながら計画的に行います。また、地域の学習・知的交流の拠点として、さまざまな情報を発信するとともに、市民が博物館活動に参画しやすい体制を構築し、市民活動と一体となった博物館活動を推進して、地域に貢献します。さらに、生涯学習の拠点としての快適な学習環境を整えるため、施設の現状を的確に把握して維持管理をはかるとともに、安全・安心で誰にも優しい施設をめざします。

2. 評価の方法

(1) 「35のあるべき姿」(各取り組み項目)の達成度

取り組み項目ごとに設定された目標値に対する達成率により、達成度を「◎」「○」「△」「×」の4段階で表示

- ◎：目標値達成率100%以上
- ：目標値達成率80%以上100%未満
- △：目標値達成率60%以上80%未満
- ×：目標値達成率60%未満

(2) 7つの活動目標の評価

各取り組み項目の達成度を、◎30点、○20点、△10点、×0点とし、活動目標ごとに平均値を算出し、各活動目標を「A」「B」「C」の3段階で評価

- A：施策の効果が十分に図られている。(24点以上)
- B：施策の効果が図られ、一定の成果があった。(18点以上24点未満)
- C：施策の効果が十分に図られておらず、改善が必要である。(18点未満)

3 令和7年度「そではく35の展望」事業目標値と達成度

展 望	あるべき姿	指 標	目標値	実績値	達成度	評価
1 地域の資料を守る－資料の収集と保管－						A
①	収蔵資料の市民共有財産としての認知と適正な保存管理	収蔵庫環境調査回数	2 回	回	◎	30
②	収集した古文書類の適正管理及び活用環境の整備と適正な修復	保存修復委託件数	1 件	2 件	◎	30
③	地域資料の散逸や棄損防止と保護のための、積極的な情報収集及び、資料収集	資料購入のための市場調査回数	5 回	5 回	◎	30
			3 項目		(平均)30.0	
2 地域を探り、発信する－調査研究と成果活用－						A
④	袖ヶ浦のことなら何でもわかる博物館	ロビー展示の開催回数	5 回	6 回	◎	30
⑤	市民のニーズの定期的な調査及び、これらを反映させた継続的な調査研究	企画展アンケート実施回数	2 回	3 回	◎	30
⑥	地域資料に関する情報集積と収蔵資料情報の随時更新	ホームページで資料の公開件数	4 件	4 件	◎	30
⑦	地域の自然・環境に関する継続的な調査研究	調査研究を伴う事業の実施回数	2 回	1 回	×	0
⑧	調査研究成果の公開	市史研究・袖ヶ浦学等での研究成果発表件数	2 件	3 件	◎	30
⑨	高度な博物館活動を担える新たな研究者や専門家との交流	講座講師や資料調査の研究者との情報交換件数	3 件	5 件	◎	30
			6 項目		(平均)25.0	
3 学習・知的交流の拠点になる－展示更新と情報発信－						A
⑩	市民の意向を反映した常設展示の更新計画及び、展示への調査研究成果の還元	常設展示の展示替えとトピックス展示等の実施	3 回	3 回	◎	30
⑪	わかりやすい展示資料の選定と展示構成及び、利用者と双方向性が高く、新たな発見や気づきがある展示	企画展・特別展に関連した刊行物の刊行	2 件	2 件	◎	30
⑫	市民の学習意欲に応える地域資料を有効活用した企画展や特別展の計画的な実施	企画展・特別展見学者数（1 回の見学者数平均）	6,500 人	5,598 人	○	20
⑬	市民が自らの意志で企画できる常設展の更新や企画展の開催	市民学芸員自主企画展示実施回数	5 回	6 回	◎	30
⑭	すべての利用者がさまざまな手段で情報を共有できる情報機器やアプリ等の積極的な導入	QRコードによる解説補助	1 件	1 件	◎	30
⑮	未来館者への、来館を促す工夫	ミュージアム・フェスティバルの参加者数	2,500 人	2,213 人	○	20
⑯	市民のニーズを反映した内容の講座開催	講座でのアンケート調査件数	3 件	1 件	×	0
⑰	さまざまなメディアを活用した継続的な博物館活動のPR	Instagram更新件数	6 回	45 回	◎	30
⑱	調べ学習や個人研究への図書室資料の活用	図書室利用件数	10 件	12 件	◎	30
⑲	利用者からの質問・相談に対応できる体制整備	レファレンス回答率	100%	100%	◎	30
⑳	相互学習や共同活動のための利用者同士の交流スペースや装置等の整備	市民学芸員・友の会の活動での施設利用件数	130 件	159 件	◎	30
			11 項目		(平均)25.5	

展 望	あるべき姿	指 標	目標値	実績値	達成度	評価
4 地域のつながりを活かす ―市民参画と地域連携―						A
㉑	博物館運営の原動力となる市民の博物館活動への参画体制構築	市民学芸員・友の会員の会員数	105人	108人	◎	30
㉒	博物館が学びの拠点となって地域がつながるための、市民学芸員・友の会員を中心としたシステム構築	市民学芸員・友の会自主事業実施回数	8回	10回	◎	30
㉓	地域連携による新たな価値や経済効果の発見・創造及び成果の発信	公民館講座のアンケートによる達成度	80%	90%	◎	30
㉔	地域の学校と連携した子どもたちの学びのサポート及び、世代間交流の促進	校外学習支援ボランティア（市民学芸員等）参加人数	延べ55人	延べ60人	◎	30
㉕	社会教育機関・博物館等とのつながりや地域企業、NPO等との交流強化による、市民の学び・交流のサポート	他団体との連携事業の実施回数	3回	2回	△	10
			5項目		(平均)26.0	
5 安心・安全な施設にする ―施設の維持管理と来館者への配慮―						B
㉖	施設の現状把握及び計画的なメンテナンス、改修計画等による施設の適切な維持管理	施設の安全点検の実施回数	12回	12回	◎	30
㉗	包括的な社会の実現のための、安全・安心で誰にも優しい施設運営	福祉施設見学受け入れ件数	40件	53件	◎	30
㉘	危機管理マニュアルを整備及び防災訓練の実施	防災訓練の実施回数	2回	1回	×	0
			3項目		(平均)20.0	
6 博物館の社会的役割を意識する―地域への貢献―						A
㉙	周辺施設や大学・研究機関等との連携及び、市民の憩いの場、観光拠点である袖ヶ浦公園を生かした魅力的な事業展開	袖ヶ浦公園を活用した事業の実施回数	2回	2回	◎	30
㉚	博物館と市民活動が一体となった活動の推進による周辺遺跡や歴史遺産の解明や深化に努めるためのボランティア育成と、魅力的な活動の支援	市民学芸員定例会参加者数（平均）	15人	12人	○	20
㉛	収蔵資料や情報・人材を活用した市民の健康や福祉への貢献	高齢者学級・シニアグループへの協力回数	1回	2回	◎	30
			3項目		(平均)26.7	
7 博物館の個性を生かし、能力を伸ばす―自己研鑽と研修参加						A
㉜	博物館の振興と運営改善のための最新の情報の収集	国等が主催する会議への出席回数（館長）	1回	3回	◎	30
㉝	館の特性と需要に見合った専門性を備えた学芸員の適正配置及び、専門的知識を獲得のための研修等による資質向上	国・県等が主催する研修への出席回数（学芸員）	3回	9回	◎	30
㉞	他機関の学芸員・研究者と交流し研鑽を積む機会及び、研究成果を発表する場の付与	他機関が主催する研究会等での調査成果の発表回数	1回	2回	◎	30
㉟	館の適切な業務のための学芸員以外の職員を配置及び、研修等による資質向上	業務に必要な情報収集のための研修会参加回数	1回	1回	◎	30
			4項目		(平均)30.0	

令和7年度評価結果 ※（ ）は令和6年度

【35のあるべき姿】 ◎：28（33） ○：3（2） △：1（0） ×：3（0）

【7つの活動目標】 A評価6（7） B評価1（0） C評価0（0）

4 そではく 3 5 の展望 取り組み状況

I 活動目標 (1) 地域の資料を守る－資料の収集と保管－				
II あるべき姿				
1. 収蔵するすべての資料が市民の共有財産として認められ、適正な環境で保存管理されている。 展望①				
2. 市史編さん事業で収集・管理してきた古文書類が適正に管理され、活用できる環境が整っており、修復等が適正に行われている。展望②				
3. 地域資料の散逸や棄損を防ぎ、保護するため、積極的に情報を集め、資料の収集にあたっている。展望③				
III 令和7年度の取り組み内容				
あるべき姿1 (35の展望①)				
・収蔵庫内の温湿度の日常的な環境管理を実施				
・収蔵環境調査(7月から11月の間で2回)				
①昆虫類生息調査 ②空中浮遊カビ類調査 ③酸・アルカリ調査 ④有機酸濃度測定調査				
⑤屋外昆虫侵入防止処理(1回目のみ)				
結果：本館内荷解室周辺でゲジ捕獲あり。その他本館内では虫の捕獲なし。				
真菌数・有機酸・アンモニア濃度問題なし。				
・収蔵庫内清掃、資料整理実施、資料燻蒸業務委託(二酸化炭素)、特別展示室で実施				
あるべき姿2 (35の展望②)				
・旧資料保存箱及び封筒に入っている資料を中性紙の資料保存箱及び封筒へ入れ替え				
・古文書等の表題データベースを作成し、活用並びに情報公開に備えた。				
・収蔵資料の修復委託 2件				
：旧奈良輪漁組文書(平成22年度～) 31点実施 (861/1,132点)				
：西原遺跡出土呪符木簡再保存処理委託				
あるべき姿3 (35の展望③)				
・寄贈、寄託資料の受入れ 新規寄贈資料件数 11件				
・寄託から寄贈への移行 5件				
・古書店やインターネットへの市外流出資料の調査 5回、購入1件				
IV 自己評価				
あるべき姿	目標値の考え方	目標値	実績値	達成度
1.収蔵資料の市民共有財産としての認知と適正な保存管理 展望①	収蔵庫環境調査回数	2回	2回	◎
2.収集した古文書類の適正管理及び活用環境の整備と適正な修復 展望②	収蔵資料の保存修復委託件数	1件	2件	◎
3.地域資料の散逸や棄損防止と保護のための、積極的な情報収集及び、資料収集 展望③	資料購入を目的とした市場調査回数	5回	5回	◎

◆成果・効果

あるべき姿1 (35の展望①)

- ・ 日常的な管理により収蔵資料が適切に保管できている。
- ・ 日常の注意と迅速な処理により、昨年度より本館内での文化財害虫の確認数が減少した。

あるべき姿2 (35の展望②)

- ・ 古文書の箱と封筒を中性紙のものに入れ替え、古文書の適切な管理を進めた。
- ・ 封筒の入れ替えに合わせ、市史目録の不備を補填し、目録の利便性を高めた。
- ・ 新収蔵古文書のデータベース化を進めた。

あるべき姿3 (35の展望③)

- ・ 寄贈希望資料について精査し、地域資料としての価値を判断して受け入れを行った。
- ・ 市民学芸員との協働により地域資料の情報を収集した。

◆課題

あるべき姿1 (35の展望①)

- ・ 荷解室を中心に、館内に害虫が侵入する隙間が見られる。
- ・ 年1回の委託による燻蒸を二酸化炭素で行ったため、カビ汚染要素のある資料の収納が保留になっている。

あるべき姿2 (35の展望②)

- ・ 古文書が読める作業者が少ないため、新収蔵古文書の整理に時間がかかる。
- ・ 出土鉄製品について、簡易的なパッキングも行われていないものが多い。

あるべき姿3 (35の展望③)

- ・ 寄託者の代替わりにより、所蔵者と連絡が取れない寄託資料がある。
- ・ 返却した目録掲載資料について、現状がわからなくなっている。

◆今後の対応

あるべき姿1 (35の展望①)

- ・ 収蔵庫の温湿度管理は継続して毎日記録し、変化があった場合は原因を追求する。
- ・ 令和8年度はガス燻蒸を実施する。

あるべき姿2 (35の展望②)

- ・ 古文書が読める作業者についての情報収集
- ・ 鉄製品は科学的な保存処理を行う必要があるが、簡易的なパッキングだけでも進める。

あるべき姿3 (35の展望③)

- ・ 市外流出資料については、引き続き調査を行う。
- ・ 現在博物館に寄託・寄贈されていない目録掲載資料について、現状確認を行う。

I 活動目標 (2) 地域を探り、発信する ―調査研究と成果活用―
II あるべき姿 1. 袖ヶ浦のことなら何でもわかる博物館になっている。展望④ 2. 市民のニーズについて定期的に調査し、これらを反映させた調査研究が継続的に行われている。展望⑤ 3. 地域資料に関する情報が集積し、収蔵資料に関する情報が常に更新されている。展望⑥ 4. 地域の自然・環境に関する調査研究が継続的に行われている。展望⑦ 5. 調査研究の成果が公開されている。展望⑧ 6. 高度な博物館活動を担える新たな研究者や専門家との交流ができている。展望⑨
III 令和7年度の取り組み内容 あるべき姿1 (35の展望④) ・各種情報の記録と管理、データベース等の活用による情報提供。 ・調査研究やその成果の展示活動を行い、刊行物などによる情報公開 ・『袖ヶ浦市史研究』第23号原稿募集 ・ロビー展示の開催 6回 ：博物館実習展示、「戦後80年、あの時、あの頃・・・そして今」、大風呂展示、市民学芸員自主企画ロビー展示 3回 あるべき姿2 (35の展望⑤) ・企画展に伴うアンケートの実施 3回 ・市民学芸員と協働での企画展調査の実施 ・テーマを設定した調査研究の実施 ：袖ヶ浦市内の縄文時代・弥生時代に関する調査、中世荘園に関する調査、民俗祭祀に関する調査、古代の植物利用に関する調査、収蔵資料の精査 あるべき姿3 (35の展望⑥) ・博物館ホームページ上で資料の公開 4件 ・古文書、民俗資料、歴史資料のデータベース化と台帳作成 ・収蔵資料の活用・公開 ：閲覧13件・資料貸与3件・写真資料掲載 許可取り扱い13件 ・埋蔵文化財ポジフィルムデジタル化 8遺跡分 あるべき姿4 (35の展望⑦) ・企画展Ⅱにおいて鳥類に関する調査成果の展示をした。 ・企画展Ⅱ関連事業と袖ヶ浦学で野鳥観察会を行った。 あるべき姿5 (35の展望⑧) ・『袖ヶ浦市史研究』第23号の募集 ・企画展での調査研究成果公開、図録の刊行 (2回) ：企画展Ⅰ「村のくらしと一大事」、企画展Ⅱ「鳥をめぐるものがたり」 ・企画展関連事業 (展示解説会) による研究成果発表 (6回) ・袖ヶ浦学による地域研究成果発表。 ・考古学講座の実施による袖ヶ浦の古墳時代についての研究発表。 ：博物館職員の研究成果発表 2件 ・地域文化財報告書の刊行

あるべき姿6（35の展望⑨）

- ・専門研究者による袖ヶ浦市史研究への応募 3人
- ・講座での専門研究者の発表（袖ヶ浦学、考古学講座、企画展関連講座）
- ・企画展にかかわる専門研究者との交流
- ・博物館実習生の受け入れによる学芸員後継者育成 実習生 4名

IV 自己評価

あるべき姿	目標値の考え方	目標値	実績値	達成度
1.袖ヶ浦のことなら何でもわかる博物館 展望④	ロビー展示の開催回数	5回	6回	◎
2.市民のニーズの定期的な調査及び、これらを反映させた継続的な調査研究 展望⑤	企画展アンケート実施回数	2回	3回	◎
3.地域資料に関する情報集積と収蔵資料情報の随時更新 展望⑥	ホームページで資料の公開件数	4件	4件	◎
4.地域の自然・環境に関する継続的な調査研究 展望⑦	調査研究を伴う事業の実施回数	2回	1回	×
5.調査研究の成果の公開 展望⑧	市史研究・袖ヶ浦学等で博物館職員の研究成果発表件数	2件	3件	◎
6.高度な博物館活動を担える新たな研究者や専門家との交流 展望⑨	講座講師や資料調査の研究者との情報交換件数	3件	5件	◎

◆成果・効果

あるべき姿1（35の展望④）

- ・新たな学びの目的を創造できる生涯学習の拠点として、地域の歴史や文化を理解する機会を提供することができた。
- ・過去の企画展の成果品などを活用し、ロビー展示をタイムリーに開催することができた。

あるべき姿2（35の展望⑤）

- ・アンケートにより、来館者のニーズを把握することができた
- ・市民学芸員定例会や友の会総会等で意見を収集することができた。
- ・考古学の最新の研究についての成果を考古学講座として市民に還元できた。

あるべき姿3（35の展望⑥）

- ・新規の資料・情報を収集・保管することで、地域研究に資する資料の幅が広がった。
- ・埋蔵文化財写真のデジタル化を進めることができた。
- ・資料整理に専従する会計年度任用職員の雇用により、近年受け入れた資料の把握と収蔵、データベース作成を進めることができた。
- ・ホームページでの資料公開は4件実施した。
：ラゲリからの便り・埴輪棺・人面墨書土器・万葉植物園歌碑解説

あるべき姿4 (35の展望⑦)

- ・鳥を中心とした袖ヶ浦の自然環境について調査を行うことで情報収集や現状把握ができた。
- ・野鳥観察会は、毎年実施することで、新たなデータを蓄積することができた。

あるべき姿5 (35の展望⑧)

- ・調査研究の成果を企画展として公開し、図録刊行により来館者に情報を提供することができた。
- ・袖ヶ浦学・考古学講座等により、地域研究の成果を詳細に伝えることができた。
- ・地域文化財報告書の刊行により、石造物の調査成果を公開することができた。

あるべき姿6 (35の展望⑨)

- ・講座等を通して、博物館の調査研究活動を共に行える研究者の協力体制を作ることができた。
- ・資料閲覧で来館する研究者や袖ヶ浦学の講師等と積極的に交流を試みた。
- ・佐久間家文書の調査については館職員も参加した研究会に発展している。
- ・他の博物館職員とは資料閲覧を中心とした交流・情報交換が継続している。

◆課 題

あるべき姿1 (35の展望④)

- ・来館者の疑問に対しては個別対応となることが多く、専門職員が足りないため、対応が後回しになることがある。

あるべき姿2 (35の展望⑤)

- ・一度も来館したことがない市民へのニーズ調査ができていない。

あるべき姿3 (35の展望⑥)

- ・データベースが活用しやすい形になっておらず、こまめな更新ができていない
- ・所蔵者の代替わりにより、町史・市史の目録に掲載されている資料の散逸が懸念される。

あるべき姿4 (35の展望⑦)

- ・自然分野に限定しているため、当該分野の専門職員が配置されなくなった場合、定期的な調査や、蓄積データの分析・活用が困難になる。

あるべき姿5 (35の展望⑧)

- ・市史研究及び袖ヶ浦学は、専門職員の研究成果発表の場として、より活用されるべきである。
- ・企画展等の研究成果は単発で終わることが多く、継続した研究体制ができていない。

あるべき姿6 (35の展望⑨)

- ・交流が一時的なもので継続性がない場合も多い。
- ・外部の研究者への効果的な情報提供のために、資料の理解や情報整理を進めておく必要がある。

◆今後の対応

あるべき姿1（35の展望④）

- ・わかりやすい情報提供のために解説シート等を増やす。
- ・市民学芸員とも連携し、散策マップについて、新たに作成する。

あるべき姿2（35の展望⑤）

- ・来館しない市民に対し、申し込みフォームを活用したアンケート等を検討する。
- ・事業を整理し、調査研究できる状況を確保する。

あるべき姿3（35の展望⑥）

- ・活用しやすいデータベースを工夫し、公開する。
- ・返却した資料の現況調査を行う。

あるべき姿4（35の展望⑦）

- ・自然分野に詳しい専門職員を配置する必要がある。
- ・野鳥観察会は、専門研究者に依頼して調査を継続し、データを蓄積していくように努める。

あるべき姿5（35の展望⑧）

- ・必要に応じ研究会等を結成し、継続した研究体制を維持する。

あるべき姿6（35の展望⑨）

- ・大学等の研究機関と連携を深め、博物館活動への協力を求めていく。
- ・外部研究者の利用促進のために公開できるデータベースを整備する。
- ・袖ヶ浦市史研究や袖ヶ浦学等で若手専門職員の研究発表の場を増やす。

II あるべき姿

1. 市民の意向を反映した常設展示の更新計画があり、展示に調査研究の成果が還元されている。展望⑩
2. 展示資料の選定と展示構成の意図がわかりやすく、利用者に対して双方向性の高い展示になっており、展示から新たな発見や気づきがある。展望⑪
3. 地域資料を有効活用した企画展や特別展が計画的に実施され、市民の学習意欲に応えるものとなっている。展望⑫
4. 常設展の更新や企画展などについても、市民が自らの意志で参画している。展望⑬
5. 情報機器やアプリ等が積極的に導入され、すべての利用者がさまざまな手段で情報を共有できようになっている。展望⑭
6. 未来館者に対し、来館を促す工夫がされている。展望⑮
7. 講座内容が市民のニーズを反映したものとなっている。展望⑯
8. さまざまなメディアを活用し、博物館活動のPRが継続されている。展望⑰
9. 図書室が調べ学習や個人研究に利用され、図書資料の活用が図られている。展望⑱
10. 利用者からの質問・相談に対応できる体制が整っている。展望⑲
11. 利用者同士が交流できるスペースや装置等が整備され、相互学習や共同で活動できる環境になっている。展望⑳

III 令和7年度の取り組み内容

あるべき姿1 (35の展望⑩)

- ・常設展示の通史展示（原始）を部分的に更新した。
- ・調査研究の成果の一環として企画展を開催した。

あるべき姿2 (35の展望⑪)

- ・企画展Ⅰ・Ⅱでは、地域の資料を多く展示することで、身近なものとして捉えられるよう工夫した。企画展Ⅲは陶芸作家の意図を伝えるため、配置や説明を工夫した。
- ・展示パネルは文字の大きさや読みやすさを重視し、記載内容もわかりやすくなるよう心掛けた。
- ・企画展チラシ・図録は、利用者に対し、展示内容理解の補助となるよう意識して作成した。
- ・常設展示は、企画展の成果を元に、利用者の共感を得やすいものを選定して展示替えした。
- ・入館者数 3館合計 35,272人
(内訳：本館 22,889人、アクアラインなるほど館 348人、旧進藤家住宅 12,040人)

あるべき姿3 (35の展望⑫)

- ・地域資料を有効活用し、企画展を開催した。
：企画展3回 入館者数 12,991人
(内訳：企画展Ⅰ 6,566人、企画展Ⅱ 4,784人、企画展Ⅲ 1,641人(3月31日まで))

- ・企画展・常設展示での収蔵資料活用 3件
- ・ロビー展示 6回

あるべき姿4 (35の展望⑬)

- ・市民学芸員自主企画展示を行った(6回)
- ・令和8年度企画展Ⅰへ向けて企画展ワーキンググループを結成し、各自調査を開始した。
- ・友の会盆栽の会による盆栽展を行った。3回(春・ミュージアムフェスティバル・秋)
- ・友の会風の会による大風展示を行った。

あるべき姿5 (35の展望⑭)

- ・万葉植物園の歌碑にQRコードを設置した。

あるべき姿6 (35の展望⑮)

- ・ミュージアム・フェスティバルを開催した。 入場者数 2,213 人
- ・講座「袖ヶ浦学」 5回開催 141 人
- ・公民館等他の施設と連携し、講座での団体利用を促進した。 6 回

あるべき姿7 (35の展望⑯)

- ・企画展等でアンケート調査を実施して要望の把握に努め、公民館や他地域の博物館等と情報共有を行い、市民にどのような講座が求められているのかリサーチした。

あるべき姿8 (35の展望⑰)

- ・ホームページ・SNS を利用した PR 活動や情報提供。Instagram 更新件数 45 回
- ・新聞、地域紙、ラジオ等の媒体を活用した情報提供。
：新聞・地域紙等への掲載回数 4 回、ラジオ（かずさFM）の出演回数 14 回

あるべき姿9 (35の展望⑱)

- ・市内小学校の物流ネットワークによる蔵書や資料等などの貸出サービス 3 件
- ・図書室での図書閲覧やコピーサービス
- ・図書室の蔵書を充実し整理した。 図書室利用件数 12 件

あるべき姿10 (35の展望⑲)

- ・各種問い合わせに応じるとともに、レファレンス情報を記録し、共有した。
：レファレンス件数 16 件・回答 16 件

あるべき姿11 (35の展望⑳)

- ・市民学芸員や友の会員は、研修室等を活用し、グループ活動を行った。活動件数 159 回

IV 自己評価

あるべき姿	目標値の考え方	目標値	実績値	達成度
1. 市民の意向を反映した常設展示の更新計画及び、展示への調査研究成果の還元 展望⑩	常設展示の展示替えとトピックス展示等の実施	3 回	3 回	◎
2. わかりやすい展示資料の選定と展示構成及び、利用者と双方向性が高く、新たな発見や気づきがある展示 展望⑪	企画展・特別展に関連した刊行物の刊行	2 件	2 件	◎
3. 市民の学習意欲に応える地域資料を有効活用した企画展や特別展の計画的な実施 展望⑫	企画展・特別展見学者数	1 回の見学者平均 6,500 人	5,598 人	○
4. 市民が自らの意志で参画できる常設展の更新や企画展の開催 展望⑬	市民学芸員自主企画展実施回数	5 回	6 回	◎
5. すべての利用者がさまざまな手段で情報を共有できる情報機器やアプリ等の積極的な導入 展望⑭	QR コードの活用	1 件	1 件	◎
6. 未来館者への、来館を促す工夫 展望⑮	ミュージアム・フェスティバルの参加者数	2,500 人	2,213 人	○
7. 市民のニーズを反映した内容の講座開催 展望⑯	講座でのアンケート調査件数	3 件	1 件	×

あるべき姿	目標値の考え方	目標値	実績値	達成度
8. さまざまなメディアを活用した継続的な博物館活動のPR 展望⑰	Instagram更新件数	6回	45回	◎
9. 調べ学習や個人研究への図書室資料の活用 展望⑱	図書室利用件数	10件	12件	◎
10. 利用者からの質問・相談に対応できる体制整備 展望⑲	レファレンス回答率	100%	100%	◎
11. 相互学習や共同活動のための利用者同士の交流スペースや装置等の整備 展望⑳	市民学芸員・友の会の自主活動による施設利用件数	130件	159件	◎

◆成果・効果

あるべき姿1 (35の展望⑩)

- ・常設展示の更新や調査研究成果を活かした企画展により、新たな情報を公開することができた。

あるべき姿2 (35の展望⑪)

- ・企画展Ⅰは、地域の古文書を詳細な解説付きで展示し歴史史料への関心を高めることができた。
- ・企画展Ⅱは、鳥をテーマに生物としての側面だけでなく、考古学・歴史学からのアプローチを試みたことで幅広い層からの来館者を得た。
- ・企画展Ⅲは作家自身が会場に常駐し、来館者とのコミュニケーションを図ることができた。

あるべき姿3 (35の展望⑫)

- ・企画展により袖ヶ浦市の新たな魅力を市民にアピールし、学習意欲の向上にも貢献できた。
- ・企画展の研究成果を常設展示に活用することができた。

あるべき姿4 (35の展望⑬)

- ・企画展ワーキンググループは、次年度の展示へ向けて個人で調査研究を重ねることができた。
- ・盆栽展は、多くの方が来館し、旧進藤家住宅の活用と周知にも成果をあげることができた。

あるべき姿5 (35の展望⑭)

- ・万葉植物園のQRコード設置は、多くの利用者により深い情報を提供することができた。

あるべき姿6 (35の展望⑮)

- ・袖ヶ浦学は地域資料を多く活用し、話題性のある内容などで、多くの参加者を得た。
- ・公民館講座生を新たな利用者として獲得することができた。

あるべき姿7 (35の展望⑯)

- ・アンケートにより、個人が考えている要望を調査し、傾向と対策を分析することができた。
- ・他の社会教育施設の状況から、博物館には来ない人の傾向と要望を推測することができた。

あるべき姿8 (35の展望⑰)

- ・各種のメディアにより多くの人にPRすることができた

あるべき姿9 (35の展望⑱)

- ・物流ネットワークによる資料の貸出の体制を利用できた。
- ・図書室や学芸員室の図書について、市民学芸員や友の会員等に貸出を行い、活用を促進した。

あるべき姿10 (35の展望⑲)

- ・問い合わせについて随時対応することで、利用者の知的欲求に応えることができた。
- ・質問・相談について情報を共有することで、より専門性の高い職員に引き継ぐことができた。

あるべき姿11 (35の展望⑳)

- ・市民学芸員・友の会員は各自の活動に博物館の施設を活用することができた。

◆課 題

あるべき姿 1 (35 の展望⑩)

- ・常設展示への市民の意向については、把握できていない。
- ・トピックス展示開催のためにも日常の調査研究の蓄積は必須である。

あるべき姿 2 (35 の展望⑪)

- ・資料を魅力的に見せるために、展示方法についても研究する必要がある。
- ・昭和時代など、利用者の共感を得やすい時期の資料はさらに展示に増やす必要がある。

あるべき姿 3 (35 の展望⑫)

- ・職員の世代交代が進行している中で、市民の学習意欲に幅広く対応するには、次世代職員の経験値向上のための育成が求められる。
- ・魅力ある企画展を実施するためには、今以上に資料調査に時間をかけ、職員が地域資料等に習熟する必要がある。

あるべき姿 4 (35 の展望⑬)

- ・展示・企画ができる市民学芸員が限られている。
- ・定例会やアンケート等により、市民学芸員の自主企画について取り上げやすい環境を整備する。

あるべき姿 5 (35 の展望⑭)

- ・展示に多言語対応や、視覚障がい者への対応ができていない。
- ・館内のインターネットの電波状況が悪い。

あるべき姿 6 (35 の展望⑮)

- ・ミュージアム・フェスティバルで、イベントのみ来館する層にはアプローチできているが、イベント時にも来館しない博物館に全く関心がない人へのアピール方法について、さらに検討する必要がある。

あるべき姿 7 (35 の展望⑯)

- ・アンケート等を収集しても活用ができていないとは言えず、アンケート結果を活用して講座等に生かすには、対応する職員にも高い経験値が求められる。

あるべき姿 8 (35 の展望⑰)

- ・かずさFMはリアルタイムでは利用しにくいので館内で試聴できるシステムを検討する。
- ・SNS については現状以上に活用の余地がある。

あるべき姿 9 (35 の展望⑱)

- ・物流ネットワークについては利用が十分ではない。
- ・図書室が常時開館していないので、利用しにくく、利用が少ない。

あるべき姿 10 (35 の展望⑲)

- ・質問・相談の内容によっては、対応できる職員が限られる。

あるべき姿 11 (35 の展望⑳)

- ・一般の利用者同士が交流できるスペースがない。

◆今後の対応

あるべき姿1 (35の展望⑩)

- ・アンケート等により、来館者の意向を把握するように努める。

あるべき姿2 (35の展望⑪)

- ・展示手法についての調査を進め、より効果的な展示をめざす。
- ・親子や家族で楽しみ、世代間交流に貢献できる展示を充実させる。

あるべき姿3 (35の展望⑫)

- ・職員の研修の機会や他館との交流の機会を積極的に設ける。
- ・調査研究及び学習の時間を多く設けられるように、特別展・企画展の準備期間は他の業務との重複について考慮するようにする。
- ・資料調査の時間を意識的に設けるようにする。

あるべき姿4 (35の展望⑬)

- ・市民学芸員全体会議や定例会などで今後の自主企画について検討する。
- ・フォローアップ研修で企画・展示についての研修を行う等、市民学芸員の育成を充実させる。
- ・アクアラインなるほど館の活用などで市民学芸員・友の会員の研究成果発表の場を充実させる。

あるべき姿5 (35の展望⑭)

- ・多言語化については、英語版解説シートを活用する。
- ・館内もQRコードを活用した展示解説補助導入を検討する。

あるべき姿6 (35の展望⑮)

- ・広報や周知の方法について、SNSを積極的に活用するなどなるべく多くの媒体を活用する。
- ・交流センター等との連携をさらに深め、新たな利用者の獲得につなげる。

あるべき姿7 (35の展望⑯)

- ・アンケートはロゴフォームの利用等でさらに回答しやすい環境を整備し、アンケートの回答率を高める。
- ・他の社会教育施設や博物館の講座に参加するなど、実体験に基づいた調査を行い、利用者のニーズを把握する。

あるべき姿8 (35の展望⑰)

- ・新聞・雑誌・テレビ等、多くのメディアで取り上げられるように、積極的なPR活動を進める。
- ・来館した人々が利用したメディア等について分析を行う。

あるべき姿9 (35の展望⑱)

- ・メールマガジンの活用など、学校教育のニーズを把握するように努める。
- ・図書室常時開室について検討する。

あるべき姿10 (35の展望⑲)

- ・レファレンス記録が蓄積されてきてはいるが、簡易な質問については誰でも答えられるように、説明シート等の充実をはかる必要がある。

あるべき姿11 (35の展望⑳)

- ・利用者同士が交流できるスペースとして、アクアラインなるほど館の活用を促進する。

I 活動目標

(4) 地域のつながりを活かすー市民参画と地域連携ー

II あるべき姿

1. 市民が博物館活動に参画できる体制が構築され、博物館運営の原動力となっている。
展望①
2. 市民学芸員・友の会員を中心に、博物館が学びの拠点となって地域がつながるシステムが構築されている。展望②
3. 地域連携によって新たな価値や経済効果が発見・創造され、その成果が発信されている。
展望③
4. 地域の学校と連携し、子どもたちの学びをサポートするとともに、世代間交流が促進されている。展望④
5. 他の社会教育機関・博物館等とのつながりや地域の企業、NPO等との交流がより強化されて、市民の学び・交流がサポートされている。展望⑤

III 令和7年度の取り組み内容

あるべき姿1 (35の展望①)

- ・市民学芸員や友の会の活動を通して、博物館事業に市民が参画し、体験学習の支援やイベントでの役割を担っている。
：市民学芸員 50名、博物館友の会 56名（令和8年3月末現在）
- ・市民学芸員養成講座の通年開催 11回
- ・上総掘り技術伝承研究会への活動支援 上総掘り技術伝承研究会員 16名

あるべき姿2 (35の展望②)

- ・企画展、ロビー展及び関連事業の実施
- ・市民学芸員・友の会との自主企画展の実施 10回
- ・博物館を拠点として活動している団体による地域貢献
：市民学芸員郷土を学ぶ会 公民館講座等への出前講座

あるべき姿3 (35の展望③)

- ・根形交流センターとの連携を継続して行った。
- ・市民学芸員郷土を学ぶ会作成の「袖ヶ浦散策」や「行ってみようマップ」を活用し、博学連携や交流センター講座で地域散策を行った。
- ・夏の単発イベントや公民館講座との連携で、袖ヶ浦公園を活用した。
- ・交流センターとの連携の促進
：根形交流センター地域再発見講座等、交流公民館講座への出前講座
協力した公民館講座の件数6件、根形交流センター報 原稿提供4件

あるべき姿4 (35の展望④)

- ・小学校3年生、6年生の校外学習支援 13校
：ボランティア参加延べ人数 60人
- ・実物資料、教材の貸し出し 3件
- ・教育カリキュラムに応じたアウトリーチの実施 7件（小学校6、高校1）
- ・教員経験者を社会教育指導員として配置し、博学連携事業に多く参加してもらった。
- ・メールマガジン「そではく通信」を発行した。発行 16回

あるべき姿 5 (35 の展望⑮)

- ・市内外施設や機関へ講師等の派遣、講座等への協力 7 件（交流センター講座含む）
- ・君津地方公立博物館協議会へ参加
：研修会、合同調査など広域地域連携の実現を図った。
- ・全国博物館大会（大阪府）への参加
- ・千葉県博物館協会への参加
- ・千葉県史料保存活用連絡協議会への参加
- ・関東地区博物館協会 会報への寄稿 1 件

IV 自己評価

あるべき姿	目標値の考え方	目標値	実績値	達成度
1. 博物館運営の原動力となる市民の博物館活動への参画体制構築 展望⑰	市民学芸員・友の会の会員の会員数	105 人	108 人	◎
2. 博物館が学びの拠点となって地域がつながるための、市民学芸員・友の会員を中心としたシステム構築 展望⑱	市民学芸員・友の会自主事業実施回数	8 回	10 回	◎
3. 地域連携による新たな価値や経済効果の発見・創造及び成果の発信 展望㉓	公民館講座のアンケートによる達成度	80%	90%	◎
4. 地域の学校と連携した子どもたちの学びのサポート及び、世代間交流の促進 展望㉔	校外学習支援ボランティア（市民学芸員等）参加人数	延べ 55 人	延べ 60 人	◎
5. 市民の学び・交流がサポートのための、社会教育機関・博物館等とのつながりや地域企業、NPO 等との交流強化 展望㉕	他団体との連携事業の実施回数	3 回	2 回	△

◆成果・効果

あるべき姿 1 (35 の展望⑰)

- ・市民学芸員養成講座の通年開催により、新たに 5 名が市民学芸員となった。
- ・市民学芸員・友の会といった形にこだわらず、博物館活動に協力してくれる市民も存在する。

あるべき姿 2 (35 の展望⑱)

- ・友の会・市民学芸員の活動により地域の団体との連携を深めることができた。

あるべき姿 3 (35 の展望㉓)

- ・根形交流センターとは相互に交流ができた。
- ・交流センターの講座等で博物館の活動について、多くの市民に周知することができた。

あるべき姿 4 (35 の展望㉔)

- ・体験学習スタッフとして市民学芸員が活躍することにより世代間交流が実現した。
- ・メールマガジンの発行により、学校へのタイムリーな情報発信ができた。

あるべき姿 5 (35 の展望㉕)

- ・君津地方公立博物館協議会では、他の加盟館職員と合同で研究を企画し、実施した。
- ・館長が千葉県博物館協会の会長を務めることで、会の運営等で中心的な役割を果たした。

◆課 題

あるべき姿 1 (35 の展望⑳)

- ・市民学芸員は世代交代が進んでいるが、養成講座終了後に活動できる人材は限られている。
- ・市民学芸員と友の会員との交流が少ない。
- ・上総掘り技術伝承研究会は、活動が休止している。

あるべき姿 2 (35 の展望㉑)

- ・博物館を利用する団体相互の連携については、あまり進んでいない。

あるべき姿 3 (35 の展望㉒)

- ・地域連携による袖ヶ浦公園などを活用した取り組み成果を発信できていない。

あるべき姿 4 (35 の展望㉓)

- ・近年アウトリーチの希望が増加し、職員の負担が増えている。

あるべき姿 5 (35 の展望㉔)

- ・連携は他の博物館や博物館協会に限られ、地域の企業や NPO との連携が図れていない。

◆今後の対応

あるべき姿 1 (35 の展望㉑)

- ・市民学芸員や友の会員は、講座や活動サポートにより、継続できるよう支援する。
- ・上総掘り技術伝承研究会の活動継続について配慮する必要がある。

あるべき姿 2 (35 の展望㉒)

- ・博物館を利用する機関・地域・団体等同士の連携を博物館がサポートする。

あるべき姿 3 (35 の展望㉓)

- ・市民学芸員郷土を学ぶ会が作成した「袖ヶ浦散策」と刊行した地域文化財報告書を活用し、各地域との連携を深める。

あるべき姿 4 (35 の展望㉔)

- ・博物館側も指導要領や教材等の研究を行い、学校側の実情について理解を深める。
- ・メールマガジン等により、確実に博物館の情報を学校へ届ける。

あるべき姿 5 (35 の展望㉔)

- ・袖ヶ浦市工場連絡会や観光協会等と情報共有を図るとともに、企業や NPO 等へ博物館の施設や資料についてアピールする機会を設け、連携を図る。

I 活動目標 (5) 安心・安全な施設にする－施設の維持管理と来館者への配慮－				
II あるべき姿 1. 管理施設の現状が把握されていて、計画的なメンテナンス、修繕、改修等の計画が立てられて、施設の維持管理が図られている。展望②⑥ 2. 包括的な社会の実現のため、安全・安心で誰にも優しい施設をめざし、実行できている。展望②⑦ 3. 危機管理マニュアルを整備し、防災訓練を実施している。展望②⑧				
III 令和7年度の取り組み内容 あるべき姿1 (35の展望②⑥) ・定期的な施設、設備の点検の実施、月1回の安全点検の実施 ・急な故障や破損等の修繕 ：万葉植物園木製平橋修繕、本館浄化槽放流槽フロートスイッチ交換修繕、収蔵庫2空調加湿系統純水器交換修繕他 あるべき姿2 (35の展望②⑦) ・高齢者施設の団体受入れを積極的に進めた。 53件 (472人) あるべき姿3 (35の展望②⑧) ・火災を想定した避難訓練・消火訓練を実施した。 1回				
IV 自己評価				
あるべき姿	目標値の考え方	目標値	実績値	達成度
1. 施設の現状把握及び計画的なメンテナンス、改修計画等による施設の適切な維持管理 展望②⑥	施設の安全点検の実施回数	12回 (月1回)	12回 (月1回)	◎
2. 包括的な社会の実現のための、安全・安心で誰にも優しい施設運営 展望②⑦	福祉施設見学受け入れ件数	30件	53件	◎
3. 危機管理マニュアルを整備及び防災訓練の実施 展望②⑧	防災訓練の実施回数	年2回	年1回	×
◆成果・効果 あるべき姿1 (35の展望②⑥) ・経年劣化や設備の故障等については、それぞれ予算の範囲内で対応し、不具合を改善した。 ・博物館施設や設備の老朽化や不具合について調査を行い、修繕・改修の優先順位等を把握した。 あるべき姿2 (35の展望②⑦) ・高齢者施設団体からは2階昭和のくらしコーナーが好評であり、リピーターも多く獲得した。 あるべき姿3 (35の展望②⑧) ・避難訓練・消火訓練により、災害時にとるべき行動や消火活動等を確認することができた。				

◆課 題

あるべき姿 1 (35 の展望②⑥)

- ・年々、施設の老朽化が進んでおり、不具合が発生し、事務の対応に時間を有する。
- ・改修計画が立てられていない。

あるべき姿 2 (35 の展望⑦)

- ・館全体のユニバーサルデザイン計画がなく改修がされていないため、施設的な課題が解消されず蓄積されている。

あるべき姿 3 (35 の展望⑧)

- ・火災だけでなく、地震を想定した避難訓練も実施する必要がある。
- ・資料の避難についても訓練に入れる必要がある。
- ・避難訓練・消火訓練が年 1 回しか実施できていない。

◆今後の対応

あるべき姿 1 (35 の展望②⑥)

- ・修繕等が必要な不具合箇所については関係部局と協議を行う。
- ・展示リニューアルも含めた大規模改修工事が実施できるよう庁内で調整をはかる。

あるべき姿 2 (35 の展望⑦)

- ・ユニバーサルデザイン設計を進めている博物館等の事例を調査する。
- ・昭和展示拡充のため、令和 8 年度企画展 I の成果を常設展示に取り入れるようにする。

あるべき姿 3 (35 の展望⑧)

- ・さまざまな災害を想定した避難訓練を計画的に実施していく。
- ・2 月に行われる県の情報伝達訓練を館全体での訓練に活用する。
- ・災害後の資料のレスキューについても職員内で検討し、情報共有する。
- ・避難訓練については必ず 2 回以上実施する。

I 活動目標 (6) 博物館の社会的役割を意識するー地域への貢献ー					
II あるべき姿 1. 周辺の施設等や大学・研究機関等と連携し、市民の憩いの場であり、観光拠点でもある袖ヶ浦公園を生かした魅力的な事業展開が図られている。展望㉙ 2. 博物館活動と市民活動が一体となった活動を推進し、周辺の遺跡や歴史遺産の解明や深化に努めるためにボランティアを育成し、魅力的な活動が継続されている。展望㊿ 3. 収蔵資料や情報・人材を活用し、市民の健康や福祉についても貢献する。展望㊻					
III 令和7年度の取り組み内容 あるべき姿1 (35の展望㉙) ・袖ヶ浦公園主催事業への協力 ・君津地方公立博物館協議会加盟簡及び市原歴史博物館との相互協力 ：資料調査、企画展協力 ・千葉経済大学博物館との相互協力 ：資料調査、資料貸出 あるべき姿2 (35の展望㊿) ・市民学芸員の地域文化財調査への活動支援 地域文化財報告書の刊行、関連講座開催の支援 ・市民学芸員養成講座による、調査のできるボランティアの育成 ・市民学芸員との協働による企画展へ向けた調査研究 ・フォローアップ研修による市民学芸員の長期的な育成 2回 ・山野貝塚ボランティア育成の協力 (生涯学習課事業) あるべき姿3 (35の展望㊻) ・高齢者との交流、回想法の試み ：高齢者施設の見学受入れ、公民館高齢者学級の見学等受入れ ・企画展・常設展による高齢者等の生きがいの創出					
IV 自己評価					
あるべき姿		目標値の考え方	目標値	実績値	達成度
1. 周辺施設や大学・研究機関等との連携及び、市民の憩いの場、観光拠点である袖ヶ浦公園を生かした魅力的な事業展開 展望㉙		袖ヶ浦公園を活用した事業の実施回数	2回	2回	◎
2. 博物館と市民活動が一体となった活動の推進による周辺遺跡や歴史遺産の解明や深化に努めるためのボランティア育成と、魅力的な活動の支援 展望㊿		市民学芸員定例会参加者数(平均)	15人	12人	○
3. 収蔵資料や情報・人材を活用した市民の健康や福祉への貢献 展望㊻		高齢者学級等への協力回数	1回	2回	◎

◆成果・効果

あるべき姿1 (35の展望㉨)

- ・近隣市博物館や県内大学との相互協力により、館蔵資料の活用を促進し、調査成果を共有することができた。

あるべき姿2 (35の展望㉩)

- ・市民とともに調査を行うことにより、市民への文化財保護の意識向上につながった。
- ・市民学芸員の調査成果を刊行物にすることで、より大きな達成感を得ることができた。

あるべき姿3 (35の展望㊱)

- ・展示見学を通し、高齢者の心身の健康維持に貢献することができた。
- ・ひらおかシニアセミナーは、市民学芸員郷土を学ぶ会へ毎年依頼がある。

◆課 題

あるべき姿1 (35の展望㉨)

- ・袖ヶ浦公園については、さらなる活用が考えられる。

あるべき姿2 (35の展望㉩)

- ・市民学芸員郷土を学ぶ会の調査等個別グループでの実績はあるが、博物館と市民が一体となった計画的な調査研究活動が行われていない。

あるべき姿3 (35の展望㊱)

- ・これまで単発的な活動しかできていない。
- ・交流センター高齢者学級等との連携がなされていない。
- ・高齢者のさらなる社会参加についても検討する必要がある。

◆今後の対応

あるべき姿1 (35の展望㉨)

- ・袖ヶ浦公園を活用した魅力ある企画を検討する。
- ・近隣博物館との連携を進め、合同企画展や巡回展についても検討する。

あるべき姿2 (35の展望㉩)

- ・文化財保護活動に対して市民が積極的に参画できるような講座を企画し、博物館とともに研究できるような人材を育成する。
- ・山野貝塚ボランティアとの連携を深める。

あるべき姿3 (35の展望㊱)

- ・日常的に高齢者が集まり、意見交換できる場を整える。
- ・公民館講座と連携し、屋外施設等を活用した健康講座の実現に向けた情報共有。
- ・退職校長会の人材を博物館事業で活用する。

I 活動目標 (7) 博物館の個性を生かし、能力を伸ばすー自己研鑽と研修参加ー				
II あるべき姿 1. 館長は研修等により最新の情報を収集し、博物館の振興と運営改善に努めている。展望② 2. 館の特性と需要に見合った専門性を備えた学芸員を適正に配置し、研修等による資質向上に努めている。展望③ 3. 他機関の学芸員・研究者と交流し研鑽を積む機会や、日頃の研究成果を発表する場が与えられている。展望④ 4. 館の業務が適切に行われるように、学芸員以外の職員を配置し、研修等による資質向上に努めている。展望⑤				
III 令和7年度の取り組み内容 あるべき姿1 (35の展望②) ・全国博物館長会議への出席 ・文化庁・東京文化財研究所等が主催する研修会・会議への出席 ・日本博物館協会・関東地区博物館協会・千葉県博物館協会・千葉県史料保存活用協議会・君津地方公立博物館協議会が主催する研修会・会議への出席・ あるべき姿2 (35の展望③) ・文化庁・東京文化財研究所等が主催する研修会等への出席 ・日本博物館協会・関東地区博物館協会・千葉県博物館協会・千葉県史料保存活用協議会・君津地方公立博物館協議会が主催する研修会等への出席 あるべき姿3 (35の展望④) ・日本考古学協会等、研究機関が主催する研修会等への参加 ・君津地方社会教育研究会への参加 ・『袖ヶ浦市史研究』等への寄稿 ・他機関から依頼された講座での講演。 ・『袖ヶ浦市史研究』への掲載を前提とした大学研究者との合同調査・研究 あるべき姿4 (35の展望⑤) ・各種研修会への庶務系職員の参加				
IV 自己評価				
あるべき姿	目標値の考え方	目標値	実績値	達成度
1. 博物館の振興と運営改善のための最新の情報の収集 展望②	国等が主催する会議に出席し、最新の情報を収集する回数	1回	3回	◎
2. 館の特性と需要に見合った専門性を備えた学芸員の適正配置及び、専門的知識を獲得のための研修等による資質向上 展望③	国・県等が主催する研修に出席し、専門的知識を獲得する	3回	9回	◎
3. 他機関の学芸員・研究者と交流し研鑽を積む機会及び、研究成果を発表する場の付与 展望④	他機関が主催する研究会等で調査成果を発表した回数	1回	2回	◎
4. 館の適切な業務のための学芸員以外の職員を配置及び、研修等による資質向上 展望⑤	研修会に参加し、業務に必要な情報を収集した回数	1回	1回	◎

◆成果・効果

あるべき姿1 (35の展望⑳)

- ・全国博物館長会議により最新の博物館事情を収集して博物館運営の参考とすることができた。
- ・千葉県博物館協会会長として、県内の博物館について最先端の情報を入手することができた。

あるべき姿2 (35の展望㉑)

- ・各博物館協会等が主催する研修会に参加し、知見を深めることができた。

あるべき姿3 (35の展望㉒)

- ・君津地方社会教育研究会の研修会に参加し、他市職員と交流し情報を共有することができた。

あるべき姿4 (35の展望㉓)

- ・説明会等に出席し、そこで得た情報を館内で周知し、職員間で情報共有することができた。

◆課 題

あるべき姿1 (35の展望㉔)

- ・遠方で開催される会議・研修会も多く、日本博物館協会・関東地区博物館協会以外が主催する研修会の情報については伝わりにくい。

あるべき姿2 (35の展望㉕)

- ・遠方で開催される会議・研修会も多く、日本博物館協会・関東地区博物館協会以外が主催する研修会の情報については伝わりにくい。

あるべき姿3 (35の展望㉖)

- ・個人で参加した研究会等の館内での情報共有。

あるべき姿4 (35の展望㉗)

- ・庶務系職員の研修の機会が少ない

◆今後の対応

あるべき姿1 (35の展望㉘)

- ・開催についての情報を収集し、遠方でも必要な会議等には出席できるようにする。
- ・オンライン会議には積極的に参加する。

あるべき姿2 (35の展望㉙)

- ・開催についての情報を収集し、遠方でも必要な研修会には出席できるようにする。
- ・オンライン開催には積極的に参加する。

あるべき姿3 (35の展望㉚)

- ・交流や発表の機会があれば活用し、有益な情報があれば館内で共有する。

あるべき姿4 (35の展望㉛)

- ・希望する研修会には出席できるようにする。

5. 令和7年度 運営に関する点検・評価

(1) 地域の資料を守る ―資料の収集と保管―

3項目 評価A

施設の老朽化や収蔵庫の収蔵スペースの問題など、施設的な制約はあるが、日常の環境管理により収蔵環境は可能な限り適正に保たれており、資料の整理や収集も計画的に進めることができている。今後もこの取り組みを継続する。

(2) 地域を探り、発信する ―調査研究と成果活用―

6項目 評価A

企画展等を契機に資料調査を実施し、その成果を展示や講座、市史研究等で発表するというように、調査研究と活用の循環ができているが、継続した調査研究のためには専門職員の調査研究の時間を確保する必要がある。調査研究成果の発表の場として、『袖ヶ浦市史研究』や袖ヶ浦学の他に、ホームページ等の活用も検討する。

(3) 学習・知的交流の拠点になる ―展示更新と情報発信―

11項目 評価A

展示更新については調査研究に基づいて企画展を年3回実施した。市内在住作家の作品展開催や展示準備を市民学芸員と協働で行うなど、市民の要望も考慮しながら実施できている。情報発信や情報提供サービスについては、あまり活用されていない図書室や物流ネットワーク、QRコード活用、多言語化等、改善点は多い。職員の世代交代に伴う問題にも対応していく必要があり、今後も同様の事業を実施していくためには、より一層の調査研究成果の蓄積等が必要である。

(4) 地域のつながりを活かす ―市民参画と地域連携―

5項目 評価A

市民学芸員や友の会の活動は活発に行われており、根形交流センターとの連携や博学連携事業は定着し、一定の評価を得ている。地域の企業やNPOとの連携は、課題であるが、他博物館との交流は活発に行われている。

(5) 安心・安全な施設にする ―施設の維持管理と来館者への配慮―

3項目 評価B

施設については、老朽化による不具合が時々発生するが、適宜対応できている。福祉施設の団体受け入れは積極的に進めている。防災訓練については、火災を想定した避難訓練・消火訓練を1回実施したが、目標の2回を達成できなかった。今後は地震等さまざまな災害を想定した訓練を計画的に年2回以上実施していく。

(6) 博物館の社会的役割を意識する ―地域への貢献―

3項目 評価A

袖ヶ浦公園を博物館事業で活用することで、公園の魅力や可能性を参加者に提示することができた。ボランティアを育成し、博物館事業を協働で行うことで、文化財への理解促進や各個人の生涯学習に貢献することができた。高齢者の多いグループを受け入れることにより高齢者の生涯学習や生きがい醸成に貢献することができたが、高齢者が個人でも来館しやすいように、親しみの持てる展示をさらに工夫する必要がある。

(7) 博物館の個性を生かし、能力を伸ばす ―自己研鑽と研修参加―

4項目 評価A

研修については、各職員が情報を収集し、希望する研修には参加できている。他機関の研究者や学芸員との交流も活発に行われている。個人の研究成果発表の場としては、館主催事業「袖ヶ浦学」や『袖ヶ浦市史研究』もさらに活用を進めたい。